

学校運動部活動改革の現在地

ーイノベーションは、どのようにして起こるのかー

期日 2022年 2月 24日(木) 16:00~17:45 【オンライン開催】

趣旨

学校教育の一環として、生徒の自主的、自発的な参加により行われる運動部活動は、教育的効果が期待されている。しかし、競技の論理と教育の論理の葛藤、長時間かつ休日もない過度の活動、体罰や暴力的指導など多くの問題を抱えている。そこでスポーツ庁は、生徒にとって望ましい部活動の環境を構築する観点から、2018年に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、活動の適正化を図ろうとしている。さらに、2020年9月に文部科学省は、学校の働き方改革の視点も踏まえ、2023年度から休日の部活動の段階的な地域移行を図ると発表した。このような状況の中で、運動部活動は従前のままの活動を続けるわけにはいかず、何らかの「改革(イノベーション)」が求められている。現在、「運動部活動の改革」はどこまで進んでいるのだろうか。現場の教員は「運動部活動の改革」についてどのように受け止めているのだろうか。また、そうしたイノベーションは、どのようにして起こるのだろうか。

そこで、本学会では「学校部活動研究プロジェクト」を設置し、研究を進めてきた。本プロジェクトでは、2021年2月から3月にかけて、「運動部活動改革(イノベーション)」の現状を明らかにすべく、全国の中学校から約2,500校を無作為抽出し、郵送による質問紙調査を行い、476校から回答を得た。本研究集会では、その結果の概要と分析内容について発表する。また、「運動部活動改革の現在地」を知るために、イノベーションの起こっている中学校の現場の先生方に現状についてお話しいただき、今後進むべき方向性についてディスカッションを深めたい。

本研究集会を、まだ緒についたばかりの「運動部活動改革」の現状を把握し、今後進むべき方向性を確認し、「よりよい運動部活動のあり方」について考える機会としたい。

プログラム

○報告 「学校部活動研究プロジェクト」による調査結果の概要と分析内容について

報告者：研究プロジェクトメンバー・常浦 光希（環太平洋大学）

○パネルディスカッション 各学校の事例発表とディスカッション

演者：寺井 大樹氏（群馬県館林市立多々良中学校・教諭

菅岡 克則氏（ゆうスポーツクラブ<山口県岩国市>・クラブマネジャー）

コーディネーター：研究プロジェクトメンバー・嶋崎 雅規（国際武道大学）

参加方法等

申込フォーム <https://forms.gle/yDtPVsCvdRALUGXw7>

※もしくは右のQRコードからアクセスください。

お振込先等の詳細は、ご登録いただいたメールにご案内いたします。

参加費

正会員(一般)：1,000円 学生会員・正会員(現職教員)：無料

非会員(一般)：2,000円 非会員(学生・現職教員)：1,000円

※現職教員の方は、正会員の場合は無料、非会員の場合は1,000円でご参加いただけます。

なお、大学教員は「現職教員」に含まれません。

<申込フォーム>



申込・振込〆切 2022年2月18日(金) 定員：500名(先着順)

問い合わせ先 日本体育・スポーツ経営学会 第66回研究集会 事務局

担当：関根正敏(中央大学・本学会理事) E-mail sekine@tamacc.chou-u.ac.jp

後援

北海道教育委員会	岩手県教育委員会	秋田県教育委員会	福島県教育委員会	茨城県教育委員会	栃木県教育委員会
群馬県教育委員会	埼玉県教育委員会	神奈川県教育委員会	新潟県教育委員会	富山県教育委員会	石川県教育委員会
山梨県教育委員会	長野県教育委員会	岐阜県教育委員会	愛知県教育委員会	三重県	京都府教育委員会
兵庫県教育委員会	鳥取県教育委員会	島根県教育委員会	岡山県教育委員会	徳島県教育委員会	香川県教育委員会
愛媛県教育委員会	高知県教育委員会	福岡県教育委員会	熊本県教育委員会	宮崎県教育委員会	鹿児島県教育委員会
仙台市教育委員会	千葉市教育委員会	新潟市教育委員会	名古屋市教育委員会	京都市教育委員会	堺市教育委員会